

町道女川出島線 出島架橋技術検討委員会 開催趣意書

女川町東部に位置する出島は、本土との距離が近いにもかかわらず、本土との交通機関は船舶のみであることから、島民の日常生活における利便性の向上や常時通行の確保、救急医療をはじめ災害時における安全・安心のための緊急輸送路の確保、当該圏域の観光や産業経済の振興、地域間交流を図る観点から、長年に渡り架橋の整備が求められてきました。

平成２３年３月１１日の「東北地方太平洋沖地震」により、女川町をはじめ出島全域が地震や津波による甚大な被害を受け、多くの島民が電気・水道などライフラインが寸断した中で長期間の孤立を余儀なくされ、改めて出島架橋の「命の橋」としての必要性が再認識されました。このため、女川町が中心となり国への要望活動を進め、平成２７年度、社会資本整備総合交付金事業として新規採択されました。

しかしながら、女川町は震災からの復旧・復興を早期に進める必要があることから、県が女川町の橋梁概略設計のあとを引継ぎ、架橋本体の基本設計から工事までを実施することになりました。

また、本体工事については、架設方法に加え橋梁本体の技術提案を求めることにより、品質の向上・コスト縮減・工期短縮などが期待できることから、詳細設計と施工を一体とした総合評価落札方式高度Ⅱ型（設計施工一括方式）を適用することとし、入札公告手続きに向け準備を進めているところです。

出島架橋は、海上に架設する長大橋であり、設計にあたっては高度な知識が要求されることから、県が事業を進めている「大島架橋事業」の実績等を参考にしながら、基本条件の整理・検討や詳細設計に向けた課題の抽出を行っており、今後、具体的に橋梁の詳細設計を進めるにあたって、災害に強く、耐久性に優れ、維持管理性の高い橋梁の整備を目指して、広く優れた識見を有する方々から助言・指導を得るため、「町道女川出島線出島架橋技術検討委員会」を開催するものです。